

第 39 回櫻井健二郎氏記念賞



「第 39 回櫻井健二郎氏記念賞受賞者」
(竹内 繁樹氏)

■第 39 回櫻井健二郎氏記念賞受賞者および受賞題目■

第 39 回（2023 年度）櫻井健二郎氏記念賞は、受賞題目「高効率有機発光材料の創製と光デバイスへの応用」に対し、京都大学の竹内 繁樹氏に授与されることが決定した。

櫻井健二郎氏記念賞は、当協会の理事であった故櫻井健二郎氏が光産業の振興に果たした功績を讃えると共に、光産業および技術の振興と啓発を図ることを目的として創設したもので、今回の表彰を含め、合計 71 件、延べ 177 名の方が受賞している。

今年度の櫻井賞は、光産業および光技術の分野において先駆的役割を果たした 2013 年以降の業績を対象に、応募いただいた業績の中から厳正に選考された。

第 39 回 (2023 年度)

| 受賞者 | 所属 | 受賞題名と受賞理由 |
|-------|------------------|--|
| 竹内 繁樹 | 京都大学 大学院工学研究科 教授 | <p>「量子もつれ光を利用した光量子センシングに関する先駆的研究」</p> <p>受賞者は、近年、注目を集める量子技術分野、特に量子もつれ光を利用した新たな光量子センシング技術分野の研究に黎明期から携わり、量子もつれ顕微鏡の開発に世界で初めて成功するとともに、量子光断層撮像 (QOCT) においても、量子光源の広帯域化により、世界最高分解能 $0.54 \mu\text{m}$ の量子光子干渉縞を観測することに成功した。さらに、最近では、可視域用のシリコン検出器で赤外分光を可能とする量子赤外分光法の開発においても、顕著な成果を挙げている。</p> <p>このように、受賞者は、量子技術、特に量子もつれ光を用いた新たな光量子センシング分野において、優れた成果を挙げ、国内外の研究開発を先導してきた。今後、さらに、産業界との連携強化により、光産業技術の今後の発展に貢献するところが大きい優れた業績である。</p> |

以上の表彰は、2024 年 2 月 16 日に開催された 2023 年度光産業技術シンポジウムの終了後に行われた。

櫻井健二郎氏記念賞委員会委員長、荒川 泰彦氏 (東京大学名誉教授) による選考経過報告の後、賞状、メダル、副賞が受賞者に手渡され、引き続き受賞者の竹内 繁樹氏より謝辞が述べられ、表彰式を終了した。